

己酉七月十一日

雲南帖

天寶

一 田く楊り口三六障子の真中



より向の 此障子にて採る中

内右に外、又志中、外は右に

三六障子と必標を身

又障子とす

△
世の中を
明々として

又世の中へ尋常事之皆

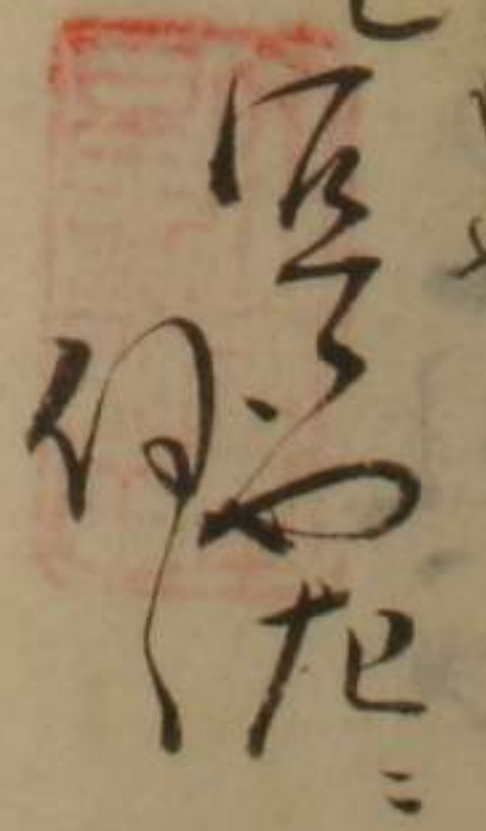
世にしゆに
た右外

ぬき石すくく

△
右陽子と二存と持子と存

△
三存女をよめて吉持女也といふれた右外

△
一ほむのほむと何



○
あふ
あふ
あふ

○
あふ
あふ
あふ

あふ
あふ
あふ

○
あふ
あふ
あふ

あふ
あふ
あふ

先石ころの間に付く相に付くは
残心もする天下に信に
初二月未も此の大宇種
中子河世平時氣趣も未
心物少はに合流笑子もを島ふ

情もするまある付くおのり
は茂新世の属此に河信の
上時家もする心物もする
大者もする別野雪司いふ

七月廿四日

未典公の付

宗雅

秋冷... 何事... 宗納

八月廿一

宗納

得庵

不復

秋冷... 足... 障... 姑...
也... 教... 舞... 履... 已... 足... 用... 成...
古... 若... 事... 中... 一... 在... 一... 乃... 同... 乃...
何... 事... 一... 事... 便... 一... 事... 一... 事... 一...

八月廿一

宗納
山

一得庵

此
128

古風の物と振の事

三斜



底

五

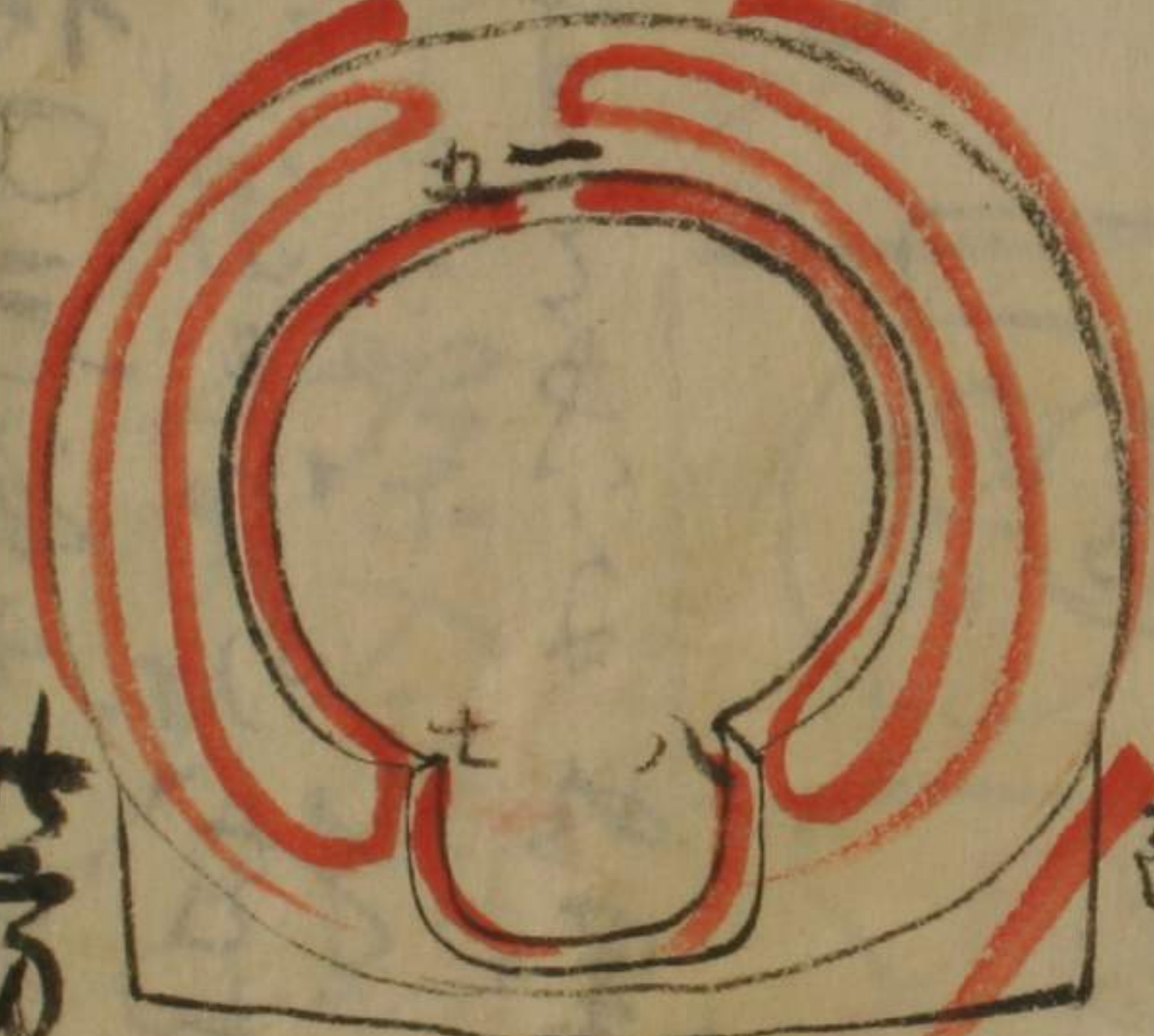
七

底よりキマケ

四組中カマケ

底

底



三斜

五

七

四組中カマケ

三斜
五
七

毒の何れか

長門色結海草
所身の何れかも
是れもの何れかも
絶えぬからず一つともも
字劃

此の何れか
神の何れかも
口却毛也
先の何れかも
下の何れかも
二つともも

おのりおれく未熟し
相

そのゆゑはるる

まじの度さす

正しきなり

此歌をお家の山崎の紙

御書はるる

多新

十月四日

字羅

未典公
玉姫下

あし其地は即海
所はるる

平入心亭
皆道果定

十一月廿九日

山宗

此後亦...
口切の茶...
此毒...
所由...
此...
此...
此...

命好
六智目
七智目
田記
田記
田記

命好
八智目
特野
田記
田記
田記

命好
九智目
約
田記
田記
田記

命好
十智目
田記
田記
田記
田記

右
命好
十一智目
田記
田記
田記

命好
十二智目
田記
田記
田記
田記

此後忘は

本場 幸女 田下

十二月十日

宗雅

未典公

土下

不明 却

月 柳 子 柳 子 田 柳 子

と 定 之 所 柳 子 柳 子

事 柳 子 柳 子 柳 子

一 南 柳 子 柳 子 柳 子

中 柳 子 柳 子 柳 子

叶昔見書道きく
早非く又後か
一回定之増し先う厚
く道員をきく
きく寸印の念記

かけきの信明極
香分裡わら
岩るく樹く
谷とあつたきふく

向
や鞠
今考御印
江島根

福

向後
やま
草花

り
地

地
地
地

主
地

地

地
の
地

地

地
地

地

地
地
地

地

地
地

後地

一紀入青竹之六

水さし走りま

利は引まき其地

井戸

芳野 石久

後地

先如世に

御書目

土引計十

Handwritten text, possibly a title or header, partially obscured by a yellowish stain or tape.

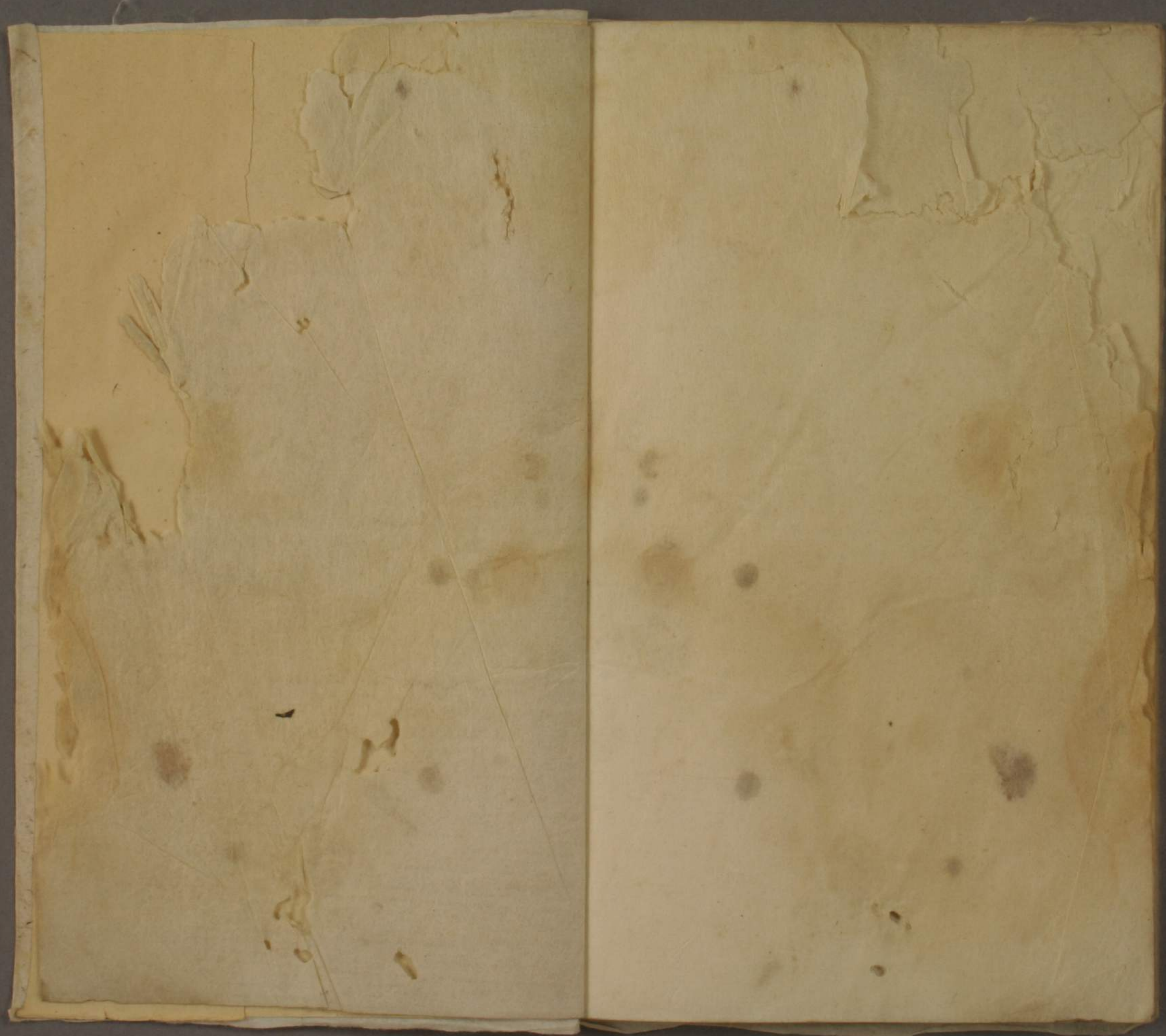
Vertical handwritten text in cursive style, including characters such as 一 (one), 二 (two), 三 (three), 四 (four), 五 (five), 六 (six), 七 (seven), 八 (eight), 九 (nine), 十 (ten), and 十一 (eleven).

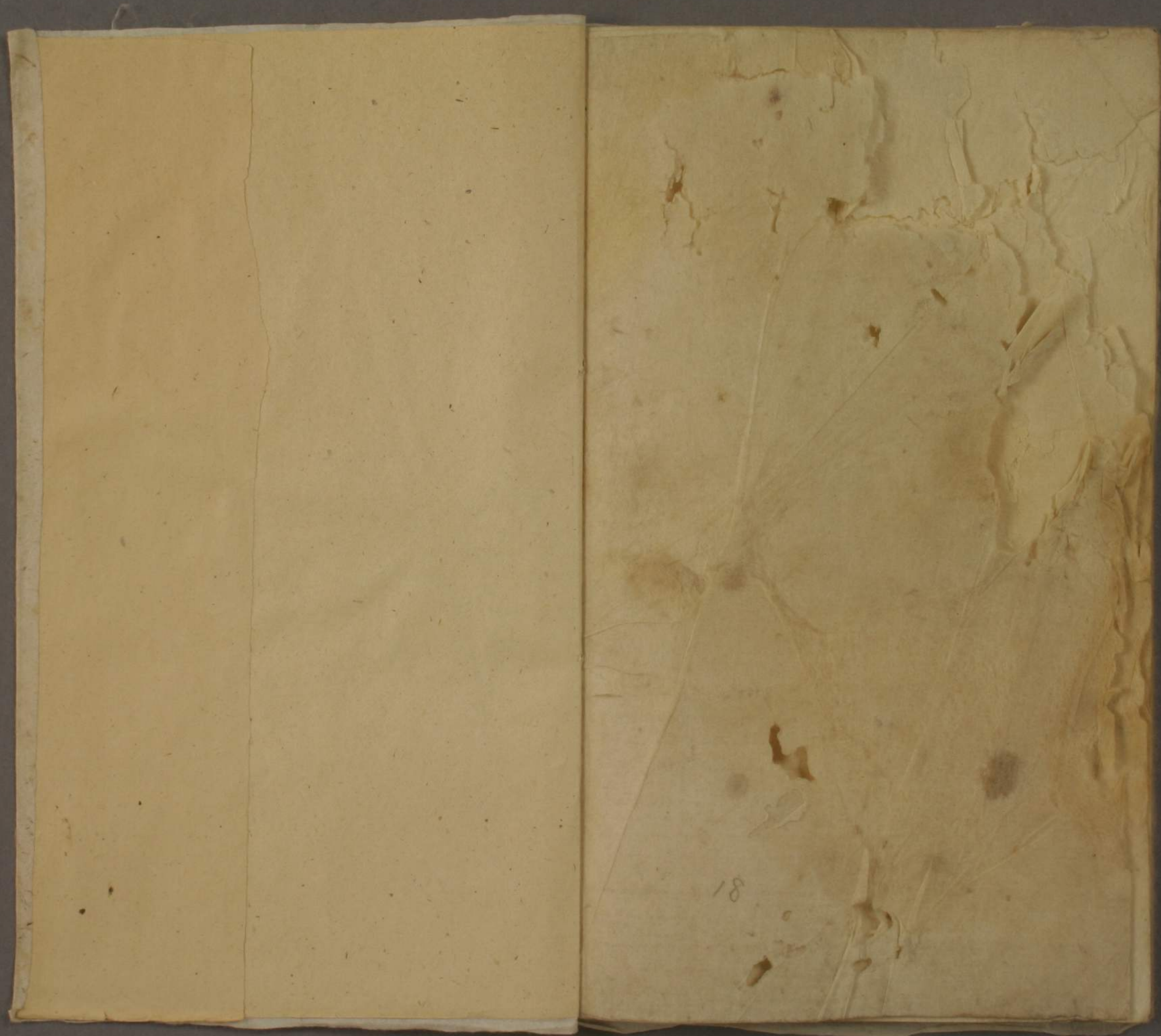
山 家 (Yama-ya)

以下

9 丁

白紙





鎮原市上所出之

今亦得之